

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し暮らして見える方々の繋がりがや関係性が強い。入居者様のほとんどが地元の出身であり地域に強く、深く関わって生活してこられた。来館される面会者や業者の方々も入居者様の多くと知り合いであるケースが目立つ。また外に出れば多くの方々にお声を掛けて頂ける嬉しい状況となっている。ボランティアの方々や地元小中学校の来館を継続させる一方、今年度は認知症カフェ等にも積極的に参加することが出来た。地域バスの利用や地域包括センター等の協力を仰ぎながら状態や介護度で参加者を限定することなくユニット毎全員で参加し沢山の笑顔を見ることが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

からすみや朴葉寿司など郷土食、行事食をワイワイガヤガヤと作ることを恒例として、地域に溶け込んだ活動を得意としている事業所です。朴葉は頻繁に使うため管理者が山から苗木を移植しているほか、年に1度は駐車場に炭火をおこして五平餅を100本余も焼く日もあります。敷地内にはコミュニティバスの停留所があり、稲武地域包括支援センター主催の「ほっこりサロン」ではバスを利用して地元の皆さんとの交流を楽しんでいます。また年1回民生委員十数名が草刈りと窓ふきのボランティアに訪れてくださり、若いママ集団「すくすくサークル」との救命救急講習は5年目を迎え、本年は初めて五平餅づくりを一緒におこなう予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関出入りに理念が常に掲げられている。御家族様や来館される全ての方々目に触れて頂く事で職員の一層の意識向上を図っている。	「ユニットで1つではないよ。3つで一つの家なんだよ」と言い続け、出勤後申し送りに全て目を通すなどの管理者の目配り、気配りを基盤に職員が育っていることが十二分に伝わる事業所です。理念の「本人の立場に～」が自然な形で実践に実っていることに安堵を覚えます。	実践の振り返りの機会を設けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元自治区の協力もあり祭りの山車の通過ルートにホームを加えて頂き目の前で伝統的な太鼓の演奏も披露して頂いた。認知症カフェへの参加も積極的に行われており古くからの知り合いとの交流が図れる様になってきた。	稲武地域包括支援センター主催の「ほっこりサロン(2ヶ月に1度開催)」には毎回ユニット毎に出かけ、全員が地域の皆さんとの交流を愉しむ機会を持っています。他にも年1回民生委員十数名が、男性は草刈り、女性は窓ふきのボランティアに訪れてくださる日もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	命を守る現場として地元サークルの参加も頂き消防署を含めた合同救命講習を開催した。また地元中学校との交流も持ち認知症への理解についての発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告を行うだけでなく今後の可能性についてもフォーマル、インフォーマルな立場を問わず意見を頂戴している。また今年度は自治区長様等の地元関係者に参集して頂き災害時の対応についても話し合いを持つ事が出来た。	本年度第2回目は豊田市の避難確保計画に基づいた取組みに向けお巡りさんにも呼びかけ、普段なかなか参加のない区長や社会福祉協議会からも足を運んでもらえ、密な協議が叶っています。議事録が綿密に作られているので、毎回の様子が大変判りやすい特長がみられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区社会福祉協議会、包括支援センター、介護相談員等とも連絡の交換を密にし利用者様にとって有益な情報を集め支援の幅を拡げられるように心掛けている。	地域包括支援センターには日常的に協力を得られるほか、今年度は実地指導もありました。また月1回訪れる介護相談員は、大工だった人がまた仕事をしたいとこぼした話を管理者に上げてくださり、本人居室に大鋸屑を置いて木の香が満喫できる暮らしとなった例もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループの必須研修項目として毎年研修を行っている。また身体拘束適正化検討委員会をテーマを持って定期的に開催し施設全体で身体拘束の廃止に取り組んでいる。	昨年の法改正に準じ身体的拘束適正化検討委員会を設置のうえ、3ヶ月に1度会議開催を重ねており、記録内容も充実しています。職員は朗らかで優しい雰囲気の人ばかりで安心な一方で、勤務歴が長いことも相まって親しさが過度な事もあり、課題としています。	親しさが過ぎてしまう点については、もともと素直で反省する姿勢を持つ職員集団とのことですので、振り返りチェック表などを定期で取組むことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必須研修項目として毎年研修を行っている。虐待が起こり得る原因を学び、考え日々の業務の中で事前に防止出来る環境作りを意識している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関連した制度を利用されている入居者様も年々増加してきている。必要な理由や状況を実際に現場で見ている職員は意識と知識も高まってきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用されていた介護サービス等との相違点についても事前に説明し不利益を被られることの無いように配慮している。説明、同意、契約のプロセスを重要視し理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より積極的に関わりを持ち率直な意見が言いやすい環境作りに努めている。外部評価で行われる御家族様へのアンケート結果も実直な意見と受け止め今後の運営の活かせるように努めている。	面会が多く、顔を合せての情報交換が十分にできています。事業所が予め備え付けてあるベッドを出して「上げ下げ」できるベッドに替えたいと、足腰の具合がわるくなった本人を心配した家族から要望があつて入れ替えに協力したケースをはじめ、随時希望に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会に乗じてユニット、個人単位の意見の交換を行っている。また本部直通の情報室ホットラインもありいつでも誰でも相談できるシステムが確立している。	解決すべき事柄は、職員が集まる毎月の研修会に乗じて是正されるほか、各ユニットではカンファレンスが慣行されています。また管理者に直接言えないことは本社の情報室ホットラインが予防的役割を担っていますが利用はなく、風通しのよい組織風土が作られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得しようとする資格やその時期に於いて制約は一切設けられていない。また取得した資格に応じた手当が給与に反映される体制となっている。また自由に意見が言い合える環境作りを目指し全職員にアンケートを行い結果を踏まえた対応がとられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決め研修会を開催している。介護という括りに拘らず総合的な分野を学ぶ職員のレベルアップを図っている。また病院主催の研修会にも参加し利用可能な支援の選択肢の幅を増やせる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内施設との交流はあるが社外同業者との交流は一部職員に限定されているのが実情である。新たな視点や考え方に触れる貴重な機会と捉え今後の課題となっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や会話、様子観察などを通し信頼関係の構築に努めている。しぐさや表情にも目を向け言葉にならない想いを重要視しニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今迄の頑張りに敬意を払いながら抱えて見える不安を払拭出来るように務めている。今後への想いにも耳を傾けながら長期的に安心して暮らしていけるような対応、配慮を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至った経緯を確認し御本人様、御家族様の率直な双方の想いを受け止める様にしている。一方通行的なサービスの導入になってしまわぬように意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者、要介護者という視点のみでの対応を行ってしまわない様に心掛けている。疑似家族の一員同士としての信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年家族会を年2回開催しており多数の参加を頂いている。御本人様、御家族様、職員との連帯感の高まりも感じられるようになってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医師、美容師、理容師、ボランティア等来館して頂くほとんどの方が地元で昔から入居者様と関わりを持っておられ気さくに会話を交わして見える。また新たな社会資源として認知症カフェへの参加頻度も増加してきた。	年2回の家族会はゲームや食事にも凝っていて、50名余の大人数となる盛況ぶりです。家族と本人が仲良く料理をプレートに盛るシチュエーションをつくるなど、家族に「良かった」「また来たい」と思ってもらえることが満載で、普段の面会数の増幅に結ばれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独立した人間同士の社会生活の場であることを念頭に置き画一的な対応や干渉を行ってしまわない様に意識している。個々の性格や相性の把握に努め各々が穏やかに生活出来る様に留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に関しては明確な取り決めはされていないのが現状であるが相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中の些細な一場面を見逃してしまう事の無い様常に目配り、気配りを行っている。介護記録やカンファレンス等情報共有のツールや機会も重要視している。	食事や薬の拒否には時間をおいて改めてアプローチしたり、マンツーマンの散歩で笑顔を引き出すなど、個々の特性を鑑みた対応を旨としています。利用者の言動を直接的に対応せず、意向を汲み取ってのやりとりの様子を幾度となく垣間見ることができ、安心が沸きます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ただ情報を集めるのではなくその一つ一つに対する御本人様の想いを把握するように努めている。得意な事や誇れる事を大切にいつまでも役割や自信が持てる様に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩、外気浴、裁縫、調理、畑仕事等今までやってこられた趣味や作業を各々の決定により行えるように配慮している。生き活きとした目で取り組まれ職員の方が指導を頂く機会も多かった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス開催時は基本的には御本人様にも出席していただき想いがプランに反映される様に努めている。御家族様との連絡も密に行い支援の方向性についての同意を頂くようにしている。	2表のサービス内容を介護記録に転写して日勤者3名(ユニット毎)が毎日チェックを入れ、介護計画の実践を確かなものとしています。退院後の変更は当然のこと、その後も状態見ながら細目に手直しを入れており、段階を踏んで丁寧に経過観察していることが伝わります。	面会が多いとのことですので、10分でもサービス担当者会議ができると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や出来事が毎日個別に記録されており少しの変化であっても職員全員が共有出来る仕組みになっている。また変化を認めた場合は詳細記録を作成し有事に備える体制がとられている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	稲武地区では伝統であり習慣でもある朴葉寿司、柏餅、からすみ、干し柿、梅干し、五平餅作りを日常に織り込んで行った。皆で協力して作り、皆と一緒に食べ満足感を職員共々味わう事が出来た。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで関わりを持たれていた医師、美容師、理容師等の来館が定期的であり安心して生活出来る環境となっている。またホーム内に地域バスの停留所を設置していただき気軽に地区内の馴染みのある場所に赴ける様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元で協力医が2医院あり定期診療、訪問診療、往診を行って頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり信頼も厚い。また医師もその方々への蓄積された長期的な情報を持って見える。	2名が従来のかかりつけ医を続け、他25名は2箇所の協力医です(3分の2は、協力医が元々かかりつけ医)。家族が地域外で暮らしているため、通院介助は難しいというケースが少なくなく、職員が付添うこともあって、帰路は本人が望む買い物支援をおこなう日もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も勤務しており介護現場では不足しがちな医療的な視点よりのアプローチが可能となっている。介護職との関係も良好で何でも相談しやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院(医師、看護師、相談員)、御家族様、施設の三者で最新の情報を共有し退院後の安心した生活に繋げられるように努力している。また管理者やケアマネージャー等が実際に病院に足を運びニーズの把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の如何に関わらず全入居者様の御家族に終末期に向けた看取りの話をさせて頂いている。協力医2名にも協力を承諾して頂いており終の棲家としての役割を果たせる体制となっている。	一部移設もありますが、重度化や体調不良となると大半が入院となり、開設から16年となるものの看取り実績は3例です。職員には「看取りをおこなうこと」を話して聞かせており、未だピンとこない人もいることは否めませんが、日頃のチームワークで乗り切りたいとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度も地元消防団の御協力を得て救命講習、応急手当の指導を頂いた。職員参加型の講習を通し不明な点の解消、緊急時の判断基準等を明確にし現場での有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画を基に避難訓練を定期的に実施している。また消防署との合同訓練や地区の関係者の方々と現状に則した災害時の避難方法や場所等も話し合う機会を持つ事が出来た。	火災想定3回、地震想定1回と取組み、数も法定より多く実施するとともに、土砂災害指定地域であることから土砂災害想定も行政指導に基づき3回おこない、地域や行政の助言も仰いでおり、密な取組みがみられます。利用者も戸外に誘導され、車輛での移動も体験しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日のスケジュールに追われ画一的な対応になってしまわない様に常に心掛けている。日頃の些細な一場面を積み重ね個としての視点を失ってしまわぬように意識して業務にあたっている。	新しい介護職の入職では、「初心を思い出す」とベテランが自らを振り返ったり、また丁寧に一人ひとりに接する新人の業務が遅れがちになると「何か手伝うことある？」と応援を申し出たりと、人柄の良さが光るエピソード満載で、利用者の居心地を高めていることが覗えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の異動もほとんどなく全ユニット共に職員との距離は近い環境になっている。何気ない会話の一端を掘り下げ全職員で共有出来る様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の個性や好み、その日の気分を尊重しながら過ごして頂ける様に留意している。散歩、裁縫、塗り絵、読書等自由に過ごせる空間、環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの個々の生活スタイルに合わせたおしゃれを楽しんで頂いている。化粧をしたり美容師、理容師の来館もある。また七夕には浴衣を着て個々に写真を撮ったところ皆様に大変喜んで頂いた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ易い物、柔らかい物という概念に捉われず慣れ親しんでこられた伝統食を形態を工夫しながら提供している。五平餅や柏餅、朴葉寿司など準備段階より入居者様にも御参加頂き楽しい食事になるように努めている。	毎食手作りで、男性職員もネット検索でメニュー開発に動んでいます。朴葉寿司やからすみ、五平餅と、行事食豊かに、本人の家の味を披露し合ってワイワイガヤガヤと作るのを愉しみとして調理レクリエーションが定着しており、五平餅は駐車場で100本余を焼く事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に摂取量を把握、提供し変化がないか観察、記録し栄養のバランスを維持できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの持つ健康維持への重大な意義を職員は理解している。個々の状態に応じながら毎食後必ず行っている。また薬剤を用いた義歯の洗浄、消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムとパターンを把握し画一的に誘導をしてしまわない様に意識している。またADL等個々の状態も考慮しポータブルトイレの使用等御本人様の安全、安楽にも気を配っている。	掴まり立ちができれば2人介助となっても「トイレで」を励行し、「できるだけ長く足腰の維持を目指すこと」を旨としています。またパッドの消費については、「費用よりも本人が気持ちがいいことを優先して欲しい」との家族意向を有難く受けての余裕をもった支援をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にチェック表を作成しリズムや量、現在の状況が一瞥しただけで把握できるようになっている。水分の摂取を促したり便秘予防の一環として毎日ヨーグルトの提供もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴が可能な体制となっている。入浴前に必ず意思を確認し気持ちの良い入浴時間となるように努めている。また状況によってはシャワー浴や清拭も選択肢として考慮し皆が安全かつ清潔で気持ちの良い毎日が過ごせる様に心掛けている。	民宿と見紛うタイル貼りの広い浴槽での入浴は1日おきを目安としています。職員から「薬をしっかり塗るためにも毎日シャワーを浴びたほうがよい」と進言があって、皮膚の病が完治した例もあります。また柚子や菖蒲など、時節行事を取り入れることも大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リズムある生活、適度な運動、精神の平穩、搔痒感の解消等様々な要素が安眠に繋がる事を職員は理解している。全室が個室となっており消灯時間の設定はない。個々のリズム、ペースを重要視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルが作成されており既往歴、処方箋、検査の結果等がいつでも閲覧できるようになっている。セッティングから服用までにチェックが何度もなされる体制となっており誤薬防止への意識も高い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで担って来られた役割は継続しお願いするように心掛けている。洗濯物干しや洗濯物量み、食器拭き等を皆様で分担して頂き社会生活の一員である意識が持てる様に配慮している。コーヒーを楽しんだり水槽の魚を覗いたりと自由に過ごし気分転換図って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域バスを利用しユニット全員で認知症カフェに赴き馴染みのある方々との交流も増えてきた。また花見、紅葉等季節に応じて全員がドライブ、外食に出掛ける事が出来た。	ちょっと足を延ばすと岐阜県、長野県の観光地もあって、春は花見、秋は紅葉へと1ユニット(9名)単位での外出支援がおこなわれています。誕生月会を外食に置き換えたり、日々の散歩では花の木(県木)、梅や桜、ススキと移り行く季節を堪能できる環境にあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭はホームでの管理となっているが希望によっては御家族とも相談し本人で管理されている方も見える。希望に応じて買い物に出掛け入居前と変わらない生活が送れる様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様あての電話はすぐにお繋ぎし、手紙や荷物はすぐにお渡ししている。またこちらから手紙を出したいという希望があれば切手の購入やポストへの投函といった支援もやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の作品、刀を合わせて完成させた作品等、皆様の思い出が掲示、展示してあり温かみのある空間となっている。またイベント毎の写真も掲示してあり皆で想いを話しあうよいきっかけとなっている。たまにしか来館できない御家族様も様子をかいま見る事が出来て大変喜んで見える。	歩き廻る利用者を見て不安気になる人には「あの人は歩いていると気持ちがいいんですって」と説明するなど、利用者間の関係性に留意しています。またフロアに貼り出した写真は何れの人も映り込むよう配慮しています。カーテンの開閉を折々でおこなう職員の姿も視認しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内に制限のある場所はなく思い思いの場所で過ごされている。テレビを観られる方、趣味を楽しまれる方、こたつで団欒される方。築いておられる人間関係にも注目し職員が干渉し過ぎる事の無いように留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様にもリロケーションダメージのお話をさせて頂き古くても愛着のある品々の重要性を説明している。筆筒、テレビ、神棚、写真立て等今まで困まれて来た思い出のある品をお好みで配置して頂き暮らされている。	カーテン付きの押し入れがあるためか衣類整理にはプラスチックケースを使う人が大半で、大きな持ち込みは見られませんが、テレビや小さな机、椅子などが配されています。デジタルフォトフレームの家族写真を眺めて「毎朝家族に挨拶している」と嬉しそうに話す人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーの構造となっており行動に制限が発生しない空間となっている。自室、ユニット内は勿論のこと屋外や、ユニット間の移動も盛んに行われている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し暮らして見える方々の繋がりがや関係性が強い。入居者様のほとんどが地元の出身であり地域に強く、深く関わって生活してこられた。来館される面会者や業者の方々も入居者様の多くと知り合いであるケースが目立つ。また外に出れば多くの方々にお声を掛けて頂ける嬉しい状況となっている。ボランティアの方々や地元小中学校の来館を継続させる一方、今年度は認知症カフェ等にも積極的に参加することが出来た。地域バスの利用や地域包括センター等の協力を仰ぎながら状態や介護度で参加者を限定することなくユニット毎全員で参加し沢山の笑顔を見ることが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

からずみや朴葉寿司など郷土食、行事食をワイワイガヤガヤと作ることを恒例として、地域に溶け込んだ活動を得意としている事業所です。朴葉は頻繁に使うため管理者が山から苗木を移植しているほか、年に1度は駐車場に炭火をおこして五平餅を100本余も焼く日もあります。敷地内にはコミュニティバスの停留所があり、稲武地域包括支援センター主催の「ほっこりサロン」ではバスを利用して地元の皆さんとの交流を愉しんでいます。また年1回民生委員十数名が草刈りと窓ふきのボランティアに訪れてくださり、若いママ集団「すくすくサークル」との救命救急講習は5年目を迎え、本年は初めて五平餅づくりを一緒におこなう予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がホーム玄関入口に掲示されており、高齢者の生活を支えている。利用者様の満足度の向上が私たちの喜びであり生活の糧である事を職員は意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元地区のご協力で山車の通過ルートに加えて下さり祭りの雰囲気をも合わせて頂いたり、認知症カフェへの参加で知人の方々との交流を持つ事が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学4年生の学習の一環として、ホームを訪問し交流を持つ事で認知症への理解を深めて頂いたり、中学生の職場体験を受け入れ理解や支援の方法を学ぶ場所を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を報告し、様々な意見も頂ける時間となっている。また今年度は自治区長様等の地元関係者に参集頂き災害時の対応についても話し合いを持つ事が出来た。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会、包括支援センター、介護相談員とも連絡を密にして、近い関係性を維持できるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須の研修項目として毎年必ず研修を行っている。また身体拘束適正委員会を定期的に開催し身体拘束の廃止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も毎年必ず実施している。小さな傷やあざにも気を払い原因が疎かされる事が無いように気を付け、虐待に繋がらない環境作りを意識している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関連した利用者様もおられ、必要な理由や状況を実際に見て職員の意識や知識も高まってきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、生活面、金銭面の不安や疑問点についても解消出来る様、利用者様及びご家族様が納得できるまで話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見は「要望」「希望」として受け止め業務に反映している。またご家族様が気軽に意見が言える環境作りに努め、想いを受け止め運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダーミーティングや、ユニット毎のカンファレンス等で個人の意見も聞くようにしており、その都度対応し反映させる様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得が給与に反映される仕組みとなっている。また、アンケート等を実施し結果を踏まえた対応が考えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを決めて研修会を実施して意見を述べ個々のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内施設との交流はあるが、社外同業者との交流は一部職員に限られている。他の業者との交流は新たな考え方等に触れる機会となる為、今後の課題となっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より様子観察を重要視し、少しの変化に気付ける様に心掛けています。普段の生活を通して想いに触れ、職員間で情報を共有出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご本人、ご家族の想いや意向を聞いたり出来るだけ両者の意見を尊重したサービスの提供を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在必要とされる対応は勿論の事、この先に予想される状況にも目を向けていける様に努めている。主治医等の意見も取り入れたサービスの提供を考え安心して生活して頂ける様に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支える立場ではあるが、御本人の想いに寄り添い一人の人格として尊重し、敬い頼れる存在と感じられるような関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より日常生活の様子や体調の変化について報告し、職員と共に状況を把握し支えて頂くように努めている。また年2回の家族会を開催し、多数の御参加をさせていただき事で、連帯感の高まりも感じられるようになって来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医師、理容師、ボランティア等来館して頂く方ほとんどが地元の方で昔からの知り合いの方が多く、声を掛けて頂いている。また認知症カフェへの参加も定着し、地元の方との関係が継続できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格人格を把握し、人間関係に配慮した対応を心掛け、職員が関わる事で円滑な関係が保たれる様に支援し、穏やかな生活が続けられるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後には明確な取り決めはないが、相談や問い合わせがあった時は、必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のふとした会話やしぐさや表情、態度からでも想いを感じられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート、アセスメントシート等の情報に頼るだけでなく、御本人の聞き取りも重視し、想いを大切にしていつまでも張り合いのある暮らしに繋がられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やりたい事や好きな事を画一化せず無理強いしてしまわないよう気を付けている。有する力を分析し新たな行動を提案していける様務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングの実施を行い、目に見える課題にのみとらわれず、想いや気持ちの変化に気を配り、ご本人、ご家族、職員間で方向性を共有してプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目標に沿った支援実施の可否、また個々の様子を介護記録に毎日残しており、職員は必ず目を通し新たなニーズの見落としが無いように留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態の多様化もあり、協力医との関係も密になっています。緊急時には医師の往診を受けられる体制になっている。認知症カフェへの参加等、サービスの機会も増えつつある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけのお医者様や、馴染みの美容師の方が定期的に訪問して下さるようになっており、安心して生活出来る環境となっている。また施設敷地内に予約バスの停留所が設置されており、出掛ける機会を持つ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元で協力医が2医院あり、ほとんどの利用者が入居前より主治医という関係があり、入居後も、訪問診療や定期受診を行い安心した医療の継続が行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も勤務しており、個々の利用者の医療的な面での相談や助言をしてもらい適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院、御家族様、施設で最新の情報を共有し退院後の安心した生活に繋がられるように努力している。また、管理者、ケアマネージャーが実際に病院に足を運びニーズの把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りの指針について説明しサインを頂いている。協力医の2名も承諾を頂いており、取り組める体制となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度も、地元消防署の協力をえて、救命講習、応急手当の指導を実施した。講習を通して知識と技術を身につけられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画を基に避難訓練を実施している。また消防署との合同訓練や、地区の関係者の方々と避難方法や場所等も話し合う機会を持つ事が出来た。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	決めつけや思い込みがない様に日々傾聴する事に意識を持って一人ひとりの想いを把握できるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に関わりを持ち、日常の会話や表情から本人の想いを把握するように努めている。本人の意思表示・自己決定がしやすい環境作りにも気を付けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズム・ペースを大切に、したい事や楽しく感じられる事を大事にして自由に過ごせる環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好きな服を選んで頂いて好みのスタイルを楽しんで頂いている。また、七夕には浴衣を着て頂いたところ、笑顔あふれる写真を残す事が出来た。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅・朴葉寿し・柏餅等、昔より馴染みの深いメニューを取り入れ、形態にも配慮しながらみんなで作りながら食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量や適量を個々に把握し、食事時の様子観察も行い、状態に合わせた提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に合わせたケアを実施している。また、入れ歯の消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の便意尿意をくみ取り、トイレ誘導を行い、手助けの必要な部分に介助支援をしている。夜間にも歩行不安定な方にも排泄維持出来るようにポータブルトイレを使用したり、車椅子使用でトイレ誘導を行い、自立支援に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作成し、リズム・量が目で見えるようにしてあり、主治医に相談し、薬の処方もして頂いている。また、日常生活に於いても水分の促しや繊維質の多い野菜を料理に多く利用して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度の目安で入浴の機会を提供している。入浴剤を入れて欲しいという要望には入浴剤を使用して香りや雰囲気からも楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休養希望の方には休養支援を取っている。一人ひとりの生活リズムに合わせ、日中の休養が夜間の睡眠の妨げで良眠できない方には日中、ソファ等で軽い休養を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方とその都度確認し、変化時には主治医からの指示を取り理解に努めている。セッティングから服用までにチェックが何度もされる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でやりたいことを聞き取り位置づけ楽しめる時間を提供出来るように支援している。現在は車椅子の方が大半で、皆さんが不公平なく役割を持ち生活出来るように考慮し可能な事をしてもらっている。午後のおやつにコーヒーを楽しむ方も見える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を通し、春のお花見、秋の紅葉ドライブは恒例となっている。予約バスを利用し、認知症カフェに出掛け、馴染みの方々と交流も増えてきた。御家族の迎えで外出される方も見える。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点からも金銭管理は施設が行っている。欲しいものがあれば職員が一緒に出掛け購入される方もいる。希望があれば職員が購入し御本人に渡しご理解いただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、施設の電話を使って頂いたり、携帯電話で御家族との連絡を取って見える方もある。手紙での交流希望は職員が預かり、ポストに入れる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の場である共用空間は光や温度調節を利用者様の希望に合わせて行っている。テレビやCDからの音も耳の遠い方が聞き入れる様にしたり、季節感が味わえる壁画や習字等も掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望があれば居室で読書やテレビ鑑賞をして頂いたり、他号館の知人である利用者の方と談話の時間が取れる様に環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用されていた物や希望の物を持参して頂き使用されている。テレビ・ラジオ等、使い慣れたものを持参され、使用されている方も見えます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器で自由に移動が出来るようにバリアフリー化され、トイレや浴室へも車椅子の方の使用が出来るようになっている。ホールやベットにも手すりが付いており安全性も備えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	令和元年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部に位置し暮らして見える方々の繋がりがや関係性が強い。入居者様のほとんどが地元の出身であり地域に強く、深く関わって生活してこられた。来館される面会者や業者の方々も入居者様の多くと知り合いであるケースが目立つ。また外に出れば多くの方々にお声を掛けて頂ける嬉しい状況となっている。ボランティアの方々や地元小中学校の来館を継続させる一方、今年度は認知症カフェ等にも積極的に参加することが出来た。地域バスの利用や地域包括センター等の協力を仰ぎながら状態や介護度で参加者を限定することなくユニット毎全員で参加し沢山の笑顔を見ることが出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

からずみや朴葉寿司など郷土食、行事食をワイワイガヤガヤと作ることを恒例として、地域に溶け込んだ活動を得意としている事業所です。朴葉は頻繁に使うため管理者が山から苗木を移植しているほか、年に1度は駐車場に炭火をおこして五平餅を100本余も焼く日もあります。敷地内にはコミュニティバスの停留所があり、稲武地域包括支援センター主催の「ほっこりサロン」ではバスを利用して地元の皆さんとの交流を愉しんでいます。また年1回民生委員十数名が草刈りと窓ふきのボランティアに訪れてくださり、若いママ集団「すくすくサークル」との救命救急講習は5年目を迎え、本年は初めて五平餅づくりを一緒におこなう予定です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がホーム入り口に掲示されており常に職員が目にし意識出来る様になっている。会議等職員が集まる場で話しあいを行う際は理念の再確認を行い日々のケアに反映される様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治区との関係性も厚くなってきており毎年祭りの山車のルートにホームを加えて頂き太鼓の演舞も披露して頂いている。小中学生の来館や地元消防署との救命講習も恒例となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元ボランティアの方々の来館を積極的に受け入れホームの現状を実際に見て頂きお伝えもしている。同じ時間を過ごして頂く事で認知症への理解を深めて頂き情報の発信源となって頂ける様に心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取組や現状について評価、意見を頂いている。様々立場からの意見や情報は大変貴重で今後の施設運営に大いに反映されていく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会、地域包括支援センター、介護相談員等関わる関係者様との距離を縮め常に最新で有益な情報が得られるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会が設置され虐待や拘束が起こり得る原因を実際の業務に照らし合わせて話し合いを行っている。決して他人事ではないという危機感を持ちながら業務にあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討委員会設置に加えホームの必須研修項目にもなっている。些細な行動や言葉をクローズアップし虐待の芽が見過ごされる事のないような環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を施設内で開催し基本的な内容と概念を学ぶことが出来た。必要に応じては施設として入居者様の権利を擁護する必要性も理解出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より十分な説明を行い必ず同意を得たうえでの契約を行っている。不安な事、疑問点が生じた時はその都度説明を行い理解と納得を頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、御家族様に対しても職員が気軽に声をお掛けし身近な相談者という存在になれるよう努めている。支援の方向性やサービスの内容決定に関しても思いや願望を反映出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される研修やリーダーミーティング等に於いて個人、ユニット毎の意見や問題を取り上げる機会がある。また本部直通のホットラインもあり何でも相談が可能な体制となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得や研修修了が給与に反映される仕組みとなっている。時期や取得資格等の制限もなく職員各々のやる気や向上心が評価される環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマを掲げ毎月研修が開催されている。また医療的な分野の研修会にも参加する機会があり情報を全員が共有出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外の同業者との交流はほとんど持っていないのが現状である。新たな視点や発想を学ぶ場として今後どうすればよいのか検討していく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の何気ない会話のやり取りや表情にも意識を向け言葉にならない意見、願望、想いがくみ取れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	目で見える現状にのみ注視するのではなく本当に望んで見える今後の生活、姿を明らかに出来るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、御家族様が置かれている現況にのみ目を向けるのではなく入居に至った経緯にも注目し総合的なニーズの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも同じ顔が横にいる疑似家族としての役割が果たせるように意識している。個々の性格や生活歴を把握しながら役割を担って頂き共に暮らす集団の一員として毎日を過ごして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診や買い物等なるべく御家族にも関わりを持って頂ける様に心掛けている。また年二回開催の家族会にも多数の参加を頂き一体感を感じて頂ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や親類の方だけでなく地元の知り合いの方々の面会や来館も多い。医師、美容師、理容師等も地元の方で昔からの付き合いが継続される様に心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格や相性も考慮した対応が取れるように日頃より観察を行っている。週二回全館合同の体操、レクリエーションを行いユニットを越えた関わり合いが持てる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ経営の利点としてサービスが終了しても他の種類のサービスの提案、利用が可能となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員各々が感じたり見聞きした事を全職員で共有し希望や意向を引き出せるように努めている。日々がアセスメントになりうるという視点を持って業務にあたっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメントシートを作成し生活歴の把握に努めている。また日々の会話や様子を通し日々それらに肉付けがなされる様に意識している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やりたい事、出来る事、困難な事を個別に見極めながら対応にあたっている。自身の想いを大切にアプローチに幅を持たせられる様に努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の支援内容とその様子について記録に残している。定期的なモニタリングを通しADLの変化や想いの変遷についても話し合いを行い本当のニーズに沿った支援が出来る様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り帳、詳細記録等用途に沿って記録を残し全職員が通読するようにしている。現況やその変化を看過せずニーズに沿った支援が可能となるように意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	五平餅、柏餅、朴葉寿司、からすみ等伝統的な郷土料理を準備段階より参加いただき毎年馴染みの味を楽しめている。また命を守る現場という視点より地元サークル等も参加し救命講習を行った。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで関わっていた主治医や美容師の来館があり安心して生活できる環境になっている。施設内に予約バスのバス停も設置されており、利用して出かける支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の2医院は協力医の契約が行われており、入居前より関わって見えた方も多く、訪問診療・往診で継続した医療を受けることもできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師も勤務しており、個々の利用者様について医療的な相談ができ、指導を受けることができている。健康管理を行い体調の変化等早目の判断ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者・ケアマネージャーが状況把握に出かけ、病院内の相談員・ご家族と常に連携を取り情報の共有を行い、退院後安心して生活を送ることができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針の説明を行い、同意のサインを頂いている。終末期を迎えた場合にご本人・ご家族と話し合いを通じ方針を決めさせて頂いている。協力医の先生にも協力の承諾を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に救命講習の依頼を行い、本年度も応急手当等の指導を受けることができた。講習を通し各自緊急時に対応できるように身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画をもとに避難訓練を定期的実施している。また、消防署との合同訓練や地区の関係者の方々と災害時について、避難方法・避難場所について話し合い、それぞれの意見も伺うことができた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーは損ねない様に、その方の想いに寄り添うことを大切に全職員が意識し対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々の性格を把握し、個人に合った対応をすることで、職員との関係を近い環境に感じて頂くよう努力し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味など一人ひとりの状態や想いに配慮しながら声掛けし、利用者様の気持ちを尊重するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族対応で美容院に行かれる方や地元美容師さんに支援をお願いしたりしている。今年は七夕に浴衣を着て写真を撮らせて頂いた。皆さん何十年ぶりの浴衣ととても喜ばれ、わずかな時間でもおしゃれを楽しんで下さった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一度嗜好調査を実施しており、食べたいもの、満足度を確認している。企画で特別なメニューを考え提供して、マンネリ化しない様に気を付けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ、食事には必ず水分を提供し、常に声掛けし食事手作りでもバランスの取れたものを提供している。また食事形態もその人に合うように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの声掛けを行い、磨き残さないように支援している。夜間帯は、義歯を外し就寝して頂くように声掛けをしている。また、週に一回義歯をお預かりし薬剤を用いた消毒を実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛けや誘導を行っている。残存機能を生かした支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声掛けを毎日行っている。腸内環境のために毎日ヨーグルトを提供したり、腹部のマッサージ等を指導している。排便状況を日々確認して服薬での調整も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴できる体制となっており、本人の意思を確認しながら支援をしている。また、入浴前にはバイタルチェックを行い、体調の確認も怠らない様になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせたリズムある生活を送ることで安眠に繋がるように休息の支援を行ったり、定期的に布団干しを行い、清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルを用意し効能や処方等の理解に努めている。また、服薬まで何度も確認をすることができるような体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や行動からアセスメントし、プランに沿いながらできることをなるべくして頂くように支援している。また気分転換に買い物に出かける支援を行う方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域バスを利用し、認知症カフェに出かけることができている。また、季節により、お花見・紅葉ドライブに全員で出かけることもあった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の観点からも、基本的に金銭は施設で管理させてもらっている。個々の希望があるときは、職員と一緒に買い物に出かけられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望に沿って電話を使用して頂いている。手紙のやり取りをされる方の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有されるホールは毎日清掃を行い、きれいに管理している。個々の作品や、イベントの写真等を掲示し皆さんが自由に観覧できるようになっている。ご家族の来館時には写真を見られ、喜んで下さっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの性格や人間関係を考慮したうえで、テーブルに座る位置の配置を考えている。居室で一人で過ごされる方もおり、ご自分のペースで生活して見える。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただいている。使い慣れた家具や思い出の品々等も制限をせず持ち込み可能になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなくバリアフリーとなっている。自立した生活を送れる方は勿論だが、車いすになられた方も居室内に自走で移動することができる。廊下、居室入口には手すりも完備されており、利用者様に優しい環境となっている。		